

# 糸

## 七夕によせて

七月七日の七夕の行事は、中国から伝わった牽牛・織女の伝説と乞巧奠（きこうでん。裁縫の上達を祈る行事）に、日本の棚機つ女（たなばたつめ＝神衣を織る聖女）の信仰などが加わったものと言われています。

そこで、今回は機織りで使う「糸」に着目して、本を集めました。

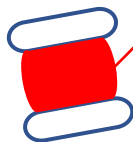
また、新一万円札の顔となった渋沢栄一と糸との関わりについても併せて紹介します。

### 【参考資料】

『全国年中行事辞典』（東京堂出版）『三省堂年中行事事典』（三省堂）  
『広辞苑 第7版』（岩波書店）

# 養蚕と製糸

- ・『お蚕さんから糸と綿と』  
大西暢夫／著 アリス館 2020年
- ・『蚕にみる明治維新 渋沢栄一と養蚕教師』  
鈴木芳行／著 吉川弘文館 2011年
- ・『桑の文化誌』  
ピーター・コールズ／著 上原ゆうこ／訳 原書房 2022年
- ・『さいたまの製糸 Saitama Silk Story』  
さいたま市立博物館／編 さいたま市立博物館 2010年
- ・『富岡製糸場 写真集 改訂』  
吉田敬子／写真 片倉工業 2015年
- ・『日本蚕糸業史再考』  
石井寛治／著 東京大学出版会 2023年
- ・『繭と絆 富岡製糸場ものがたり』  
植松三十里／著 文藝春秋 2015年

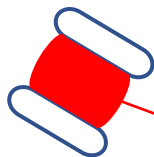


## さいたま市とシルク

明治30年代、さいたま市域では長野県から複数の製糸業者が進出し、機械製糸業が発展します。進出した業者のひとつである片倉製糸(後の片倉工業株式会社)は、群馬県の富岡製糸場を昭和14年から経営、操業停止後も平成17年に富岡市に寄贈するまで管理を続けました。

また、大宮図書館が入っている大宮区役所庁舎の外観デザインは、製糸業が盛んだったことから着想され、「絹糸スクリーン」と呼ばれています。

# さまざまな糸



- ・『糸を出すすごい虫たち』（ちくまプリマー新書）  
大崎茂芳／著 筑摩書房 2019年
- ・『糸紡ぎのテクニックとデザイン』  
青島由佳／著 誠文堂新光社 2020年
- ・『近代日本の工業化と企業合併 渋沢栄一と綿紡績業』  
橋口勝利／著 京都大学学術出版会 2022年
- ・『菌類の生物学 生活様式を理解する』  
D.H.ジェニングス,G.リゼック／著 広瀬大,大園享司／訳 京都大学学術出版会 2011年
- ・『ご縁の糸 芽吹長屋仕合せ帖』（新潮文庫）  
志川節子／著 新潮社 2014年
- ・『繊維の科学』（おもしろサイエンス）  
日本繊維技術士センター／編 日刊工業新聞社 2016年
- ・『繭ハンドブック』  
三田村敏正／著 文一総合出版 2013年

## 製糸と紡績

製糸は、糸の製造全般の意味で使われることもありますが、特に繭から生糸を製造することを言います。

紡績は、綿や化学繊維などの短い繊維を加工して糸にすることです。

### 【参考資料】

『新・繊維総合辞典』（織研新聞社）『繊維便覧 第3版』（丸善）  
『広辞苑 第7版』（岩波書店）

# 糸を使う・糸で作る

## ・『アウシュヴィッツのお針子』

ルーシー・アドリントン／著 宇丹貴代美／訳 河出書房新社  
2022年

## ・『織物の文明史』

ヴァージニア・ポストレル／著 ワゴナー理恵子訳 青土社  
2022年

## ・『サンダーバードを作った男 ジェリー・アンダーソン自伝』

ジェリー・アンダーソン, サイモン・アーチャー, マーカス・ハーン／著  
アーカス・吏津子／訳 洋泉社 2003年

## ・『特別展 銘仙』

埼玉県立歴史と民俗の博物館／編 埼玉県立歴史と民俗の博  
物館 2021年

## ・『日本のヴァイオリン史 楽器の誕生から明治維新まで』

梶野絵奈／著 青弓社 2022年

## ・『母と子の織りの楽しみ イラストで見てわかるはじめての機織り 新装版』

志村ふくみ, 志村洋子／著 美術出版社 2014年

## ・『まぼろしを織る』

ほしおさなえ／著 ポプラ社 2024年

このリストに掲載している図書は、さいたま市立図書館で  
所蔵しています。貸出や予約（順番待ち）ができます。

さいたま市図書館ホームページ <https://www.lib.city.saitama.jp/>

さいたま市立中央図書館 浦和区東高砂町1-1-1

TEL 048-871-2100 FAX 048-884-5500